

## 1.2 改築 (1) 現状

本市は昭和 27 年に管路施設の工事に着手し、現在の総延長は約 256km である。

管きよの標準的耐用年数は 50 年であるため、昭和 27 年に布設した管路施設は平成 14 年には布設から 50 年が経過しており、既に改築時期を迎えている。改築を必要とする管路施設は今後さらに増加し、平成 30～40 年代にかけて一斉にピークを迎える。また、市内に 8 箇所あるポンプ施設（桜堤ポンプ場・大野田ポンプ場・北町ポンプ場・北町雨水貯留施設・東町一丁目合流改善施設・東町四丁目合流改善施設・東部公園合流改善施設・下水道用地合流改善施設）についても、老朽化が進んでいる施設がある。

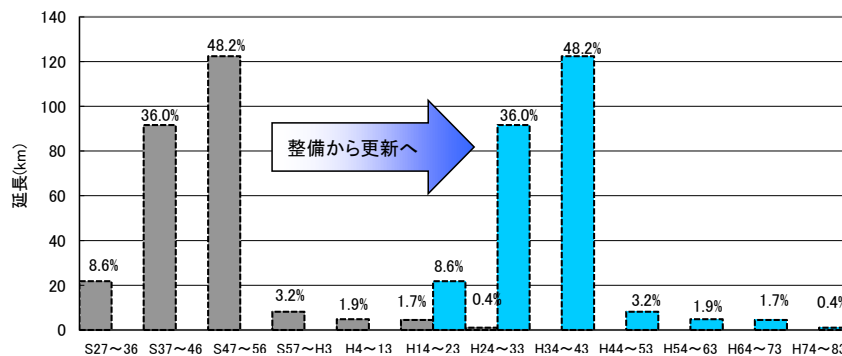


鉄筋が露出する老朽管内の様子

管路施設の改築には多額の事業費を要するが、近年の社会情勢等を考慮すると、その財源確保は厳しい状況にある。

しかし、長寿命化基本計画の策定（平成 23 年度）にあたり、市内の管路施設の状況を調査したところ、腐食やたるみ等は少なく、また年代が古いほど劣化が進行するという顕著な傾向は見られず、比較的劣化傾向は緩やかであるという分析結果が出た。この結果を基に、今後 100 年間の健全度の予測を行ったところ、引き続き適正な維持管理を行うとともに単年度の事業費を約 3 億円に平準化して改築を行えば健全度が比較的維持できるという予測が立った。

これを踏まえ、長寿命化基本計画を発展させるかたちで全ての下水道施設を対象にストックマネジメント計画の策定作業を現在進めている。ストックマネジメント計画は、下水道施設全体を一体的に捉えて計画的な点検・調査及び修繕・改築を行うことにより持続的な下水道機能の確保とライフサイクルコストの低減を図ることを目的とするものである。



管きよの布設年度別整備延長と割合

用語：改築、管路施設、耐用年数、長寿命化、更新、更生工法、予防保全型維持管理、修繕、ストックマネジメント、ライフサイクルコスト

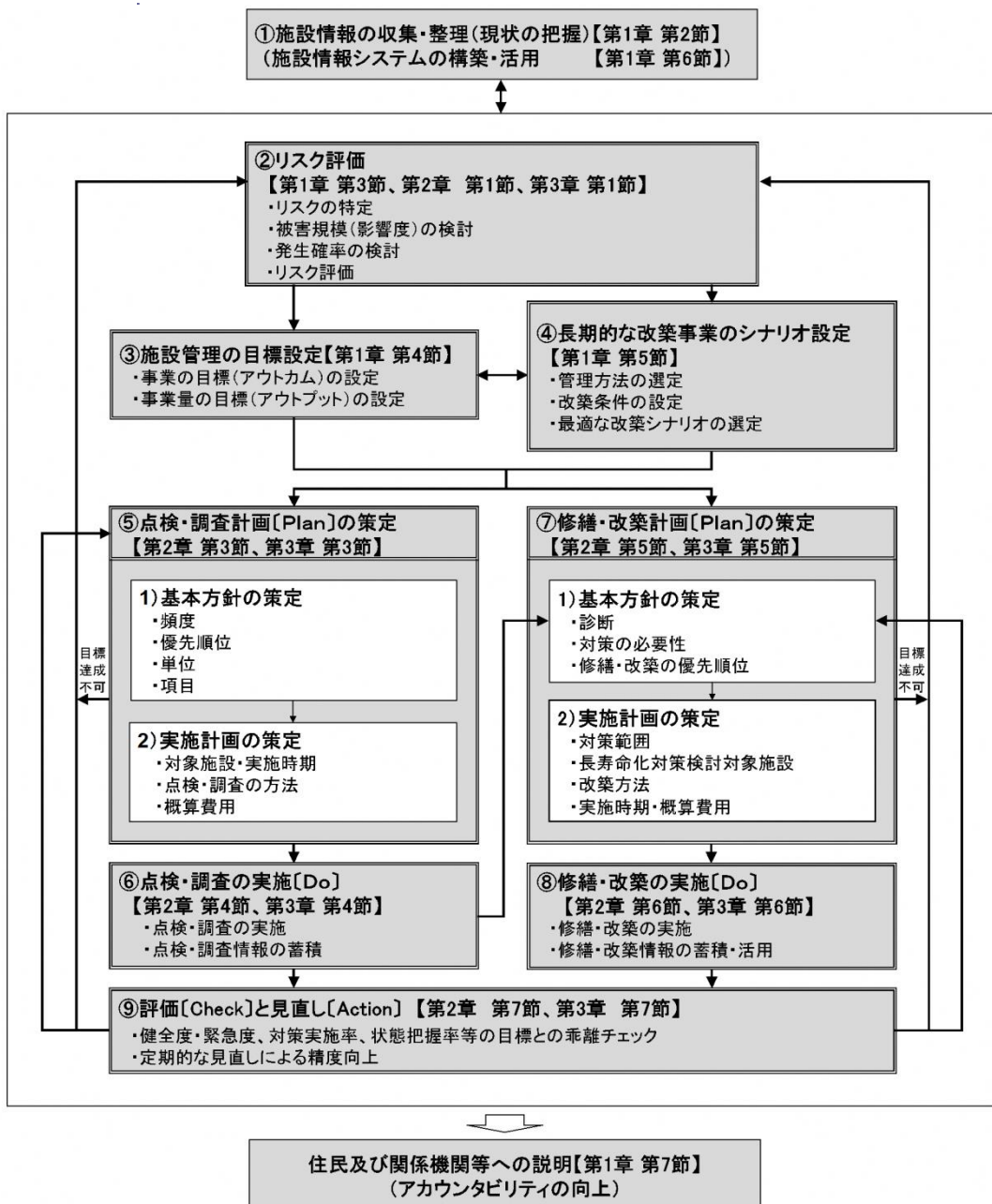
## (2) 課題

### ストックマネジメント計画に基づく改築

平成 23 年度に策定した長寿命化基本計画及びそれを発展させた平成 31 年度に策定予定のストックマネジメント計画によれば、従来の対症療法的な維持管理から予防保全型の維持管理へ転換をさらに推進するとともに、改築等の事業費を圧縮することが可能となる。今後はストックマネジメント計画に基づき着実な改築を行う必要がある。

#### ストックマネジメントのフロー

(国土交通省「下水道事業のストックマネジメント実施に関するガイドライン」より抜粋)



用語: スtockマネジメント、長寿命化、予防保全型維持管理、管路施設、改築